

際的な支援体制の充実につながり、よりユニバーサルなキャンパスへと進歩していけるように、今

後も研究と実践を続けていきたいと考えている。

英国における世代間交流の実践 ーロンドン、マンチェスター、北アイルランドを中心にー

家族・地域支援学科 草野 篤子
教育・福祉研究センター嘱託研究員 伊藤 わらび

はじめに

ここ十数年、英国における世代間交流実践はめざましい発展をとげている。その背景に BETH JOHNSON FOUNDATION (以下 BJJ) の取り組みがあると言える。「人々が上手に年をとることができる社会を作り上げる」ことを目的として活動している BJJ は、地方自治体、政府部局、コミュニティ・グループなど様々な組織と協働して活動を進めている。そして 2001 年に BJJ の指導の下に、The Centre for Intergenerational Practices (CIP) を設立し、英国中の世代間交流実践の発展を支援している。このような背景をもつ英国内の世代間交流の実践について 2012 年 3 月 19 日～26 日の間、ロンドンとマンチェスターの世代間交流団体や行政を中心に訪問し、担当者から取材し、また実際の活動に参加することができた。

1. ロンドンにおける世代間交流

(1) Magic Me による世代間交流実践

Magic Me は、ロンドン東部のピクトリア・パークスクウェアの前に建つ緑のドアを持つ建物である。1992 年に設立され、芸術大学を卒業したスーザン・ランフォードさんが現在責任者を務めている。5 名の専従スタッフはそれぞれの専門を生かしユニークな活動を展開している。スーザンさんはグラフィックデザイン、デイビットさんは音楽、シャロットさんはアート (art) とプログラム責任者、クリアさんは

コミュニティとコミュニケーションの責任者である。この他、7 名の役員、2 名の連携者、自由契約の芸術家 27 名、専門家としての協力者 (含団体) 7 名の他に多くの教師、活動のオーガナイザー、活動を発展させるワーカー達や多くの活動を共にしている人々、若い学生、グループ、ボランティア団体、金銭的支援者への謝辞が 2010 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日の年報に記述されている。また、この期間に亡くなった高齢の参加者男女計 9 名の氏名が “We Remember” として記されている。

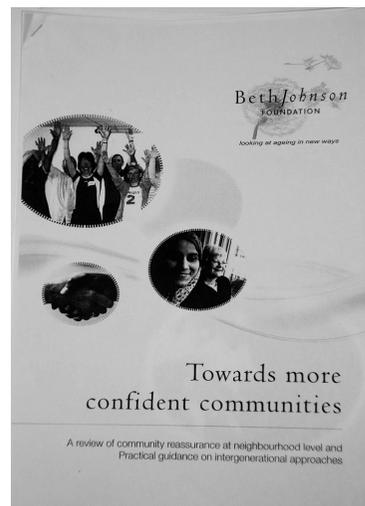


写真1 ベス・ジョンソン財団が発行している世代間交流実践のガイドブック

Magic Me はベス・ジョンソン財団の 12 の評議会メンバーの一員である。スーザンさんは長年の世代間交流実践における開拓的な事業が

評価され、エリザベス女王から勲章 (MBE) を授与された。

色彩の美しい年報の表紙を開くと次のような文章が記されている。

「世代間を結ぶ Magic Me」

Magic Me は、世代間が共により強固な、安全な地域を築き上げようとしている。

我々のプロジェクトはしばしばパートナーとしてではなく、連携をしている。若い人々は 8 歳から、そして大人は 60 歳以上が分ち合い、創造的な活動を通してチームを作っている。世代間交流のグループは、学校や博物館、高齢者のクラブ、介護ホーム、地域や文化団体で平日に会う。プロジェクトは自由契約の創造的なアーティスト、ミュージシャン、ダンサー、写真家、印刷業、作家やドラマのスペシャリストたちのチームにより導かれている。

彼らは会話とアイデアの変化を奨励する活動をデザインしている。参加者はその年齢グループと同じ位、素晴らしい文化や信仰において、しばしば異なっている。私達のプログラムは新しいアイデアやプロジェクトの実施を試みたり、実験をおこなったモデルと結びついている。

2010 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日までの 1 年間の活動は、次のように記されている。

1. Tower Hamlets で

Dressing Up! 2010, Moving Lives, 2011, Grand Explorers, Mosaic Project 2010, An Apple a Day, Photowalks, Singing Project 2010, St Hilda's Project, Holler, Intergenerational Choir, Cocktails in Care Homes, Go & See, Film Club, Pen Friends

2. Tower Hamlets の外で

A Different View, The Geffrye Museum of the Home, Old, New, Borrowed, Blue

3. Students on Course Placements

4. Cocktails in Care Homes Volunteers

5. Annual Report Credits

6. Annual Report Photography

この 1 年間で 152 回のワークショップとイベントをタワーハムレットとイズリングトンで行った。290 名のレギュラーの参加者と 45 名の短期の参加者がいた。36 人は 2 日以上プロジェクトに参加していた。3500 回以上の Photowalks Book のダウンロードと 4900 回以上の Magic Me の世代間交流レポートへのダウンロードのためのアクセスがあった。



写真 2 Magic Me 発行の年報の表紙

参加者の人種は次の通りであった。

白人 59% (170 人), アジア人 27% (79 人)
黒人 8% (24 人), その他 6% (17 人)

参加者の年齢は次の通りである。

75 歳以上 (116 人) 40%, 65 歳～74 歳 (40 人) 14%
25 歳～64 歳 (15 人) 5%, 18 歳～24 歳 (37 人) 13%
5 歳～17 歳 (82 人) 28%

参加者の性別

女性 (226 人) 78%, 男性 (64 人) 22%

年報で紹介されている参加者の声を記してみる。

・高齢の参加者

「それは私を健全にした。もし Magic Me がな

かったら私は家でもうろく (gaga) していたであろう。貴方が誰とも話をしない時、あなたの脳は何と早く低下するかは驚くばかりである。」

・若い参加者

「初めは人々はおどおどしており、恥ずかしがり、加わることを希望しなかった。しかし、今、我々は私達がお互いに信頼し合っているということを互いに知っている。」

・Magic Me のアーティスト

「Magic Me は、アーティストと参加者がお互いにケアをするという方法において、非常に特殊である。そしてこれは個別的でユニークであるその活動を通してもたらされる。人々は（自分を）価値あるものと感じる。」

筆者らが Magic Me を訪れた時、用意されていたランチを頂き乍ら、スーザンさんのお話をうかがった。それから、当日予定されていた The CLARA GRANT 小学校を訪れ、10歳の生徒たち15名程に紹介された後、徒歩数分のところにあるケアホームを訪れた。高齢の男女数名が待っており、作業室で約1時間半程、共同でモザイクの作品を製作した。1つの机に高齢者1～2人と生徒2～3人が仲良く協力してテーマ作りをした。スーザンさんと、もう1人専門の女性スタッフが指導した。



写真3 Magic Me の世代間交流活動に参加しているロンドンのクララ・グラント小学校

活動のあと再び Magic Me に戻り、お茶を頂い

た。夕方6時頃、そこから Magic Me が定期的に担当している Westport Care Centre へ行き、“Tea Dance” に参加した。かなり高齢の車イスに乗った男女がその時を楽しみに待っていた。インド人の女性ダンサーが腰かけていて踊れるインド舞踊を指導した。ソーシャルワーカーが言葉遊びの楽しい歌と全員が互いに交流できるようなプログラムを用意し、2時間を楽しく過ごした。勤めを終わった2人の若いボランティアの女性も参加した。彼女らは、高齢者とはなじみがあるようであった。Magic Me の芸術性をとり入れた多彩な世代間交流の実践を体験することができた。



写真4 世代間交流活動で製作したモザイク作品の前で、スーザンさん（右側）と

(2) HAVERSTOCK SCHOOLにおける世代間交流

HAVERSTOCK SCHOOL は、ロンドンの北西、地下鉄“チョーク・ファーム”駅に近いところにある。ロンドン特別区、カムデンの、世代間交流の Development officer である Vanda Carter さんに連れられて午前中に訪問した。そこで Nikki Haydon さんの説明を受けた。この地域は、かつての英国領植民地であった国々から労働や移住のためにやってきて生活している人が多い。5～18歳までの1300名の生徒が学んでいる。労働党の党首やロンドン市長もかつての卒業生であり、公立校一のエリート校とされてきた。現在、生徒たちは70か国からやってきており、50以上の言語が話されている。60%以上の生徒にとって英語は第二言語である。ほぼ50%の生徒が特

別なニーズを持ち、多くの生徒は、あまり恵まれない家庭環境である。45～50%の生徒が給食の無料支給を受けている。学校にはスクール・ソーシャルワーカーが配置されている。地域での取り組みの結果、すべてのエリアで2000年以降顕著な進歩がみられる。CVAが2009年に類似した1019校と比較した結果からも、明らかになった進歩である。

HAVERSTOCKは次のような点から、特徴ある学校といえる。

- ・すべての時間、地域に開かれている。これは日本の鹿島建設の支援によるところが大きい。
- ・学校は地域の中心にありコミュニティにアプローチしている。
- ・併設されている Business and Enterprise College が地域のビジネス組織と多くのパートナーシップを広げている。
- ・6つの型の中に、財源、創造、メディアといった Career Academies がある。
- ・学校は活動やイベントのために、地域に資源として用いられている。Camden Parents' Day, Dads in the Picture, Gospel Oak young People's day, Camden HIV event, これらは50日以上にわたっている。
- ・コミュニティと市民のプロジェクトは、HAVAGO プログラムに生徒がボランティアとして参加することを促進している。
- ・芸術、ドラマ、スポーツのプロジェクトは、特別カリキュラムのプログラムの一部であり、中心的なカムデンスクールで学ぶことを通して小学校と連携することが可能となる。
- ・コミュニティの安全プロジェクトとして Graffiti art と T シャツ作りがある。
- ・Haverstock Community 安全委員会が Haverstock でスタートした。

過去20年間以上継続している Haverstock の世代間交流プロジェクトには、次の様なもの

がある。



写真5 ハバーストック・スクールと鹿島建設の世代間交流のパンフレット

・ Giving and celebrating

—生徒たちがクリスマスに高齢者を訪れプレゼントを渡したり、新年のパーティを高齢者たちのために開く。

・ Links with charlies

—デジタルアートプロジェクト、詩作の大会、亡くなった方々へ手紙を書く、music day, Art project など。

・ 救世軍との連携

・ Let's face the music and dance

—Tea Dance は Parent's Day を祝うために2008年に、バレンタインは2009年から始まった。



写真6 世代間交流で製作された握手の彫刻

・ A special project : Hand built

—若者と高齢者の間に信頼を築くことを目的として、11～14歳の若者16人が高齢の市民と共に彫刻を製作した。“握手”の作品が学校の廊下に飾られている

- ・活動からもたらされた影響
 - 一・連帯感が強まった。
 - ・明らかに楽しんでいること。
 - ・無私になっていること。
 - ・彫刻製作におけるプライド。
 - ・未来への熱意。
 - ・参加者が増加することへの意識。
 - ・信頼感が強まった。
 - ・お互いによく知り合ったために、双方に尊敬がみられるようになった。
- ・年輩者のための土曜セッション
 - 一・土曜日の午後、映画をみたりビンゴをする。
 - ・地方紙, コミュニティセンター, ケアホーム, カムデン世代間交流ネットワークへ広告を出す。
 - ・毎回, クジとお菓子が出る。
- ・いかに成功を続けているか
 - 一・Key は学校で必要とされていることについて連絡する。
 - ・コミュニティの結束と市民性を基礎として, 学校を中心におく。
 - ・可能な限り多くのスタッフを異なったエリアから用意する。
 - ・生徒たちを信頼する。彼らは見事である。

(3) London Borough of Camden Councilの世代間交流の実践

London Borough of Camden Council で働く Vanda Carter さんは、公立の世代間交流を実践している office の他に 2カ所のコミュニティセンターへ案内してくれた。Vanda さんは自分の役職に強い情熱と専門性を持って取り組んでいることが、渡された何冊かの年報や小冊子の記述からうかがえる。London における Intergenerational Work は、“good practice guidelines for Intergenerational work” としてインターネットで世界に発信されている。

- 1) Camden における世代間交流活動 (2006-2008) の概要について
 - ・ SHAK Photography Project
 - ・ Life Stories
 - ・ On the Road with KOVE
 - ・ Tree of Life Garden Ceramic Project
 - ・ Hand Built
 - ・ Bridge the Gap
 - ・ Building Bridges
 - ・ Bubby Bags Project
 - ・ Intergenerational Work at Castle Haven Community Association
 - ・ West Hampstead Events Association for Residents and Tenants
 - ・ Branch Hill House Residential Care Home
 - ・ Intergenerational Activities in the Kentish Town area
 - ・ Camden Green Fair & Bike Fest-Tea Dance
 - ・ The Archaeology of Conflict
 - ・ Acting up at Kings gate



写真7 London Borough of Camden Council の庭に立っている利用者が作成したモザイクのトーテムポール

紙数の都合で活動内容については、割愛する。訪問した 2カ所のコミュニティセンターで見学した活動の実際は以下の通りである。

- 2) Castle Haven Community Association (以下 CCA)

地域住民のために多彩な活動を展開してい

ることを HELPS Project Manager であるト
リシア・リチャードさんと Transitions コー
ディネーターのピーター・ディさんが説明し
て下さった。



写真8 キャプセルヘブン・コミュニティセンターでバン
ダさん（右側）と

CCA の活動を挙げてみる。

①The Haven After School Club & Junior Youth Inclusion Project

—8～12歳の子どもたちが放課後、月～金
曜日午後4時～6時まで過ごせる。ここ
で宿題の援助やフットボールを含むスポー
ツや、料理、芸術、工作、ゲーム、日帰り
旅行などの活動を楽しむ。利用料は1回2.5
ポンドである（日本円約363円）。

②CCA HELPS (The Help Elderly Local People Scheme)

—孤独で心身が衰えている人や、貧困で近隣
と隔絶されている Camden に居住している
50歳以上の住民に対して、このような状
況が改善されるように多様な活動が行われ
ている。HELPS の活動は London 自治区
Camden 評議会に設置された CCA の役割
である。

③CCA Youth Café

—13～19歳の子供たちのための Youth
Club というプロジェクトである。無料の
ミュージックスタジオ、演劇、ボクシング

やフットボールなどのスポーツ、料理・芸
術・工作や、休暇中や日帰りの旅行など専
門家の参加もある。

④The Little Haven

—5歳以下の子どもをもつ親を対象に火・水・
金曜日の午前中に多彩な保育活動が実施さ
れている。

3) Charlie Ratchford Resouse Center

訪問した時、地域のシニアの方々が若い男
女とマンツーマンで親しく話をしていた。こ
の学生たちは、ロンドン大学医学部1年生
で、センターでの世代間交流が1年間正規の
科目となっており週一日、研修のために訪れ
ているということであった。センター内は、
広いラウンジの他に絵画等の作品を製作する
部屋やパソコン室、会議室、また食堂はこぎ
れいで居心地良く整えられており、昼食を申
し込んだ利用者が座っていた。広い廊下には、
利用者の作品が飾られており、花壇と木
が植えられた庭には、利用者の製作したモザ
イク作品のトーテムポールが立っていた。

このセンターの2011～2012年の活動予
定表には、月～金曜日の午前10時～午後5
時まで、30分間のゲームで開始したあと、
ドラマ、歌、映画、コンピューター、裁縫、
美容、芸術、陶芸、タイ茶、家族史、リラク
ゼーション、語学、ビーズ製作など多彩な活
動が用意されている。

(4) 犯罪少年のための世代間交流コミュニティ・ サービス

これは、Camden adult social care サービ
スと Camden CSF の犯罪少年のための事業
計画と共同で取り組まれている。Vanda さん
が製作した2009～2011年の活動報告には
次のように記述されており、世代間交流によ
る地域における少年犯罪への効果を認識させ

られる。

「世代間の接触は、反社会的な行動や若い人々の間での社会的排除に立ち向い、世代間の誤解を縮小することを助けることができる。

この活動はまだ最近始まったばかりであるので、その成果や学習、組織的な評価は、明確になっていない。互いに各世代を強めることができる世代間交流のモデルは、若い犯罪少年の可能性を追求し、自分を尊重し、価値ある人間としての自覚を高め、転換点での罪の再犯に対する弱さを軽減させる。

もし若者と高齢者がお互いにめったに会わないならば、彼らはお互いに人間としての自然な共感を感じ合わないかも知れないし、事実、挑戦しない若者や高齢者について、否定的なメディアのステレオタイプを受け入れるかも知れない。そして彼らは容易に互いに恐れたり、嫌悪したり、軽蔑するようになるかも知れない。」と Vanda さんは、犯罪少年に対する矯正の世代間交流の意義と効果について、確信を持って述べている。

2. Manchester City 評議会における世代間交流

マンチェスターは、ロンドンから北西へ車で約2時間30分のところにある。産業革命時代にイギリス綿織物産業の中心地として発展した街であり、ローマ時代の城塞の跡や世界最初の鉄道の展示のある博物館がある。1970年代にイギリス経済の不況の波にあおられ、失業者が激増し、経済状況は大きく変化した。しかし今日も、音楽や美術等の芸術面では、依然世界のトップレベルを保っている。市内では、演劇やコンサートなどの文化的行事が盛んで、英国内から多くの観客が集まってくる。

マンチェスターは人口約40万人、greater マンチェスターは人口200万人である。ジェネーブ、ニューヨーク、ブリュセル、カナダ、オーストラリアと並び、英国で唯一つの WHO の Age

Friendly City のネットワークをもつ都市である。

(1) Manchester City 評議会(以下 MCC)

MCC はロンドンの Magic Me および Linking Generations North Ireland と同様に ベス・ジョンソン財団の Intergenerational Advisory Group の一員として活動している。City 評議会には90人の評議員がおり、5つのコアグループがある。評議員、地方当局、大学、民間部門、個人部門、居住者グループで Age-Friendly 世代間交流が推進されている。

Sally さんと Patric さんが著者らを待っておられ、説明して下さった。Patric さんはベス・ジョンソン財団で3年間仕事をしていた。2009年～2011年のプログラムは13の世代間交流プロジェクトから成り立っている。それは①若者と高齢者の共働(Shared Spaces) ②技能と学習のシェア(Shared Skills and Learning) ③健康と福利(Health and Wellbeing) ④家族(Families) の4つのテーマに基づいている。

プログラム実践のコストは40万ポンド(日本円約5,800万円)であり、それは、労働党政権の下で設置された“Generations Together”を通して資金を提供された。世代間交流の事業ができるか否かについて、明示することが計画された。

イングランド内の12の地方当局が、資金を供給されることに成功した。

(2) 背景

このプログラムは、Manchester City 評議会、マンチェスター公衆衛生局内の“Valuing Older People Team”により担当された。マンチェスターでは、貧困で、かつ健康状態が不良で、孤独で孤立した状態で暮らしている高齢者が英国内の平均より多い。また市内の若者は、教育の達成レベルが低い。ここは、社会的見地から見て、恵まれない都市地域である。しかし、マンチェスターへの強い愛着と市への誇りをもっているため、そして実践の結果、すべての社会的

尺度において、進歩を続けている。



写真9 マンチェスター市が製作した 世代間交流のカレンダー

(3) プログラムのねらい

プログラムは“Generations Together”への企画として成功した。プログラムのねらいは次の三点である。

- ①高齢者、若者、そしてより広いコミュニティ間のバリアを壊すこと
- ②若い人々と高齢の人々が共に来るよう、新しいスキルを発展させるよう、そして地方のエリアを発展させるよう支援する
- ③ボランティアをする若者と高齢者を増やす

以上の目的が基金の要求とマッチする一方で、それらは、Ageing Strategy（加齢戦略）と Community Strategy（コミュニティ戦略）が存在することによって、マンチェスターの目的とマッチした。マンチェスターは、この企画を支援した 2006-2008 年にかけて、指導的な世代間交流プロジェクトを連続的に実施してきた。その企画は、Valuing Older People Team により発展させられたが、アカデミック・公的・私的なボランティア分野とのパートナーシップを反映している。

(4) 次の一步

世代間交流事業は Manchester の“Age-Friendly City”プログラムにとり入れられている。具体的な活動がない間は、管理、組織、ピ

ジネス計画、訓練及びプロセスを検討することに時間とエネルギーを当てている。

3. 北アイルランドにおける世代間交流

アイルランドは 1937 年に北部の 6 州を残してアイルランド共和国として独立した。この 6 州が現在の北アイルランドであるが、新教徒と旧教徒の戦いは今日まで続いている。北アイルランドは、EMIL (The European Map of Intergenerational Learning) の 40 ヶ国のメンバーの一つである。EMIL は世代間交流学習の役割と地位の一般的な概観を提供することを目的とする共同の学習ネットワークである。EMIL は、アイデアや資源を収集、交換、分配をすることを通して、地域としてのヨーロッパとグローバルなネットワークの計画を支援することを引き受けている。EMIL はあらゆる多彩な方法で、世代間の交流学習を、専門家の知識を利用、推進、支援するパートナーシップの輪を広げている。

(1) Linking Generations Northern Ireland (以下 LGNI)

Northern Ireland Initiative は、高齢者と若者が出会い、お互いから学ぶ機会を提供することにより地域を越えて、世代間交流の実践の発展を促進し、支援している。それは、大西洋慈善事業 (The Atlantic Philanthropies) と北アイルランド司法省の Community Safety Unit により資金が供給されており、またベルファースト市協議会等の追加融資を受けている。ベス・ジョンソン財団の指導を受け、2014 年 7 月まで資金が供給される。

北アイルランドでは、世代間交流の実践に長い歴史がある。世代間交流の企画と開発されたプログラムの広範囲にわたる中心は、社会的かつ公共政策 agendas の広い範囲へと、世代間交流実践の適用性が反映している。これらは、地域の安全、教育、健康、都市と近隣の関係の回復やコミュニティの開発を含んでいる。若者や高齢者に悪影響を与える時

に、IP（世代間交流の実践）は、家庭奉仕員や貧困、社会的疎外を避けるための支援をする刊行物でキャンペーンの趣旨を明確にしている。Linking Generations Initiative の広い目的は世代間交流の連帯感を促進することである。

それには、次の6点があげられる。

- ① IP（世代間交流の実践）の性質と目的に関心を高めること。
 - ② IP を発展させる組織と共にパートナーシップを組んで働くこと。
 - ③ IP に従事することを願っている人々への訓練と支援を提供すること。
 - ④ IP プロジェクトのために小額交付金プログラムの管理をすること。
 - ⑤ 世代間連帯をはかるため、例年のヨーロッパ連合の日である4月29日を推進すること。提案された「Positive Ageing 及び世代間交流を推進する連帯のヨーロッパ連合年 2012年」に向けての計画を立てること。
 - ⑥ 実践を持続させるために、一層の交付基金を開拓すること。
- (2) Free Training(無料トレーニング)

世代間交流の無料のトレーニングの配信と、世代間交流の企画を引き受けるための準備におけるコミュニティのグループと専門家・学校などへの支援が、LGNI イニシアティブの重要な部分になっている。トレーニングは北アイルランドを越えて、地理的に広げられた自由で対話的なセミナーを通して配信されている。

参加者からのフィードバックでは、この入門的なトレーニングが、成功している世代間交流プロジェクト計画と完成にとって、きわめて重要であることを示唆している。

LGNI は The Atlantic Philanthropies から今後三年間、資金を継続して得ることに成功している。この基金の一部で、2011年11月に、北アイルランド周辺で、LGNI の新しい

活動計画、活動のテーマ、トレーニング、小額基金と機会を設けることについての情報を提供する一方で、4つの情報セッションが実施された。最初のテーマセッションは2月21日に開かれ、4月18日と5月23日には、Craigaron の Hub で、トレーニングが計画された。

おわりに

今日世界のあらゆる情報が瞬時に、日本に居ながら入手できる。「世代間交流」についても、それが当てはまるといえる。しかし、生の活動からもたらされる臨場感は、現地に赴き、関わっている担当者から話を聞き、活動を実際に共におこない、1メンバーとして参加することにより得られることができるといえよう。調査期間は短い、国・民族を越えて共有した貴重な時間を通して連帯感、友情、互いの尊敬などに気付かされる。

英国は日本と同様に高齢社会であり、類似の社会問題を抱えているが、いち早く民間と行政の連携の基に、世代間交流の実践が確固たる理念と専門性を踏まえて、着々と進められ根を下ろしていることを知ることができた。